

5年「通学路」

【主題名】たいせつなきまり

【内容項目】C「規則の尊重」

（実践から授業改善のポイント）

日常生活の中でいきまりについて心を留め、守る上で大切にしなければならぬ心のあり様について考えを深めるために

通学路を守るといふ身近なきまりについて考えることで、通学路を守ることが大事なことだけど、「通学路破り」などという言葉もあり、つい軽視しがちな自分自身にも目を向けさせる。

また、いきまりとは、自分自身だけではなく、周りの人たちを守ることに必要なということに気づかせたい。

教材を有効に活用するために

見つけなければいいや、みんなもやっているからと、いきまりを軽視したことにより、友達に迷惑や心配をかけるだけでなく、信頼をも失いかねないという所に心を留めさせたい。

イラストから自他の行動や気持ちについて考えを広げること、価値に迫ることができる。

本時で考えたいねらいについて明確にする。

導入 「通学路」についての教師の体験談を話す。

「みなさんはこんなことはしていないと思うけど、先生は小学校の時、友達の家犬を見たくて通学路じゃない道を通って下校してお母さんにすごく怒られたことがあったんだ。ちょっとくらい寄り道してもいいのに……って思ったんだけど。」

「通学路は守らなくてはいけないのかな？」



高学年なので、通学路破りを経験している子供もいるかもしれない。素直に自分の気持ちに向き合えるように教員の体験談は有効である。

同じような経験をしている児童は多い。自分事としてしっかり考えさせたい。

発問①

「下校の時、母から言われた言葉を思い出して、私はどんなことを考えましたか。」

- C：こんな遅くなっちゃって困ったな。
- C：ピアノのお稽古の時間に合うかな。
- C：早く帰らなくちゃ。
- C：お母さんに怒られちゃう。

遅くなってしまった状況を把握させ、「早く帰りたい」という私の気持ちに共感させる。

発問②

「スーパーの駐車場の前で立ち止まった時の私の気持ちを考えましょう。」

- C：この駐車場は横切つてはいけないいきまりだけど、今日だけ。
- C：少しでも早く帰りたい。ここを横切るしかない。
- C：車に気をつけながら通ればいいよね。
- C：お稽古に間に合わないのは委員会の仕事で遅くなってしまったんだからわたしのせいじゃない。

- ・今日は、特別な理由があるからしかたがない。
- ・みんなのために仕事をして遅くなったんだからいきまりを破っても許される。
- ・見つけなければいいや。
- ・みんなもきっとやっているにちがいない。

といったいきまりを守らない理由を考えることで、いきまりの大切さは理解しているが、行動に移せない人間の弱さも理解させる。

いきまりを守らないことで、多くの人に迷惑や心配をかけ、友達からの信頼を失うことにもなりかねないということに気づかせ、いきまりの大切さを深く考えさせる。

発問③

◎ 「わたしは、みち子さんに手をとられ、徹くんを支えてもらいながらどんな気持ちで歩いていったのでしょうか。」

- C：情けないなあ。
- C：いきまりを守らないでこんなことになって恥ずかしい。
- C：いろんな人に迷惑かけてバカなことした。
- C：ちゃんといきまりを守ればよかった。
- C：みち子さんも徹くんもいきまりを守らなかったわたしのことを嫌いになったかもしれない。
- C：信頼を失ってしまったかもしれない。

見つけよう 生かそう

『通学路は守らなければいけないのかな?』という問いから始めた授業でしたが、このようないきまりについてみなさんが考えたことを教えてください。」

「転んだ罰の悪さよりも、通学路を守らなかったことをみち子さんや徹くんに見つかったことの方が、はるかに心がいたんだ。」という文に着目させる。

イラストを拡大して活用するとよい。

- C：いきまりは私たちを守るためにあるのだということに気づいた。
- C：いきまりを破ると多くの人に迷惑をかけてしまうことがわかった。
- C：ちょっとくらい、いいやっていう気持ちも私にもあった。いきまりの大切さを考えることができた。
- C：通学路のことでもそうだけど、いきまりについてあまり考えたことがなかった。これからちゃんと考えたいと思った。